

2017年3月期
(2016年4月～2017年3月)

決算説明資料



感光材研究所 (千葉県印西市)

 東洋合成工業株式会社

2017年5月19日 (金)

2017年3月期 決算概要

為替相場の変動の大きかった2017年3月期

2016年2月以降、原油価格の下落、米国景気減速懸念、英国のEU離脱等の世界情勢不安から円高が進み、2017.3期3Qまで大きく影響を受けた
2016年11月以降、米国トランプ大統領の誕生により円安へ反転

円/米ドル



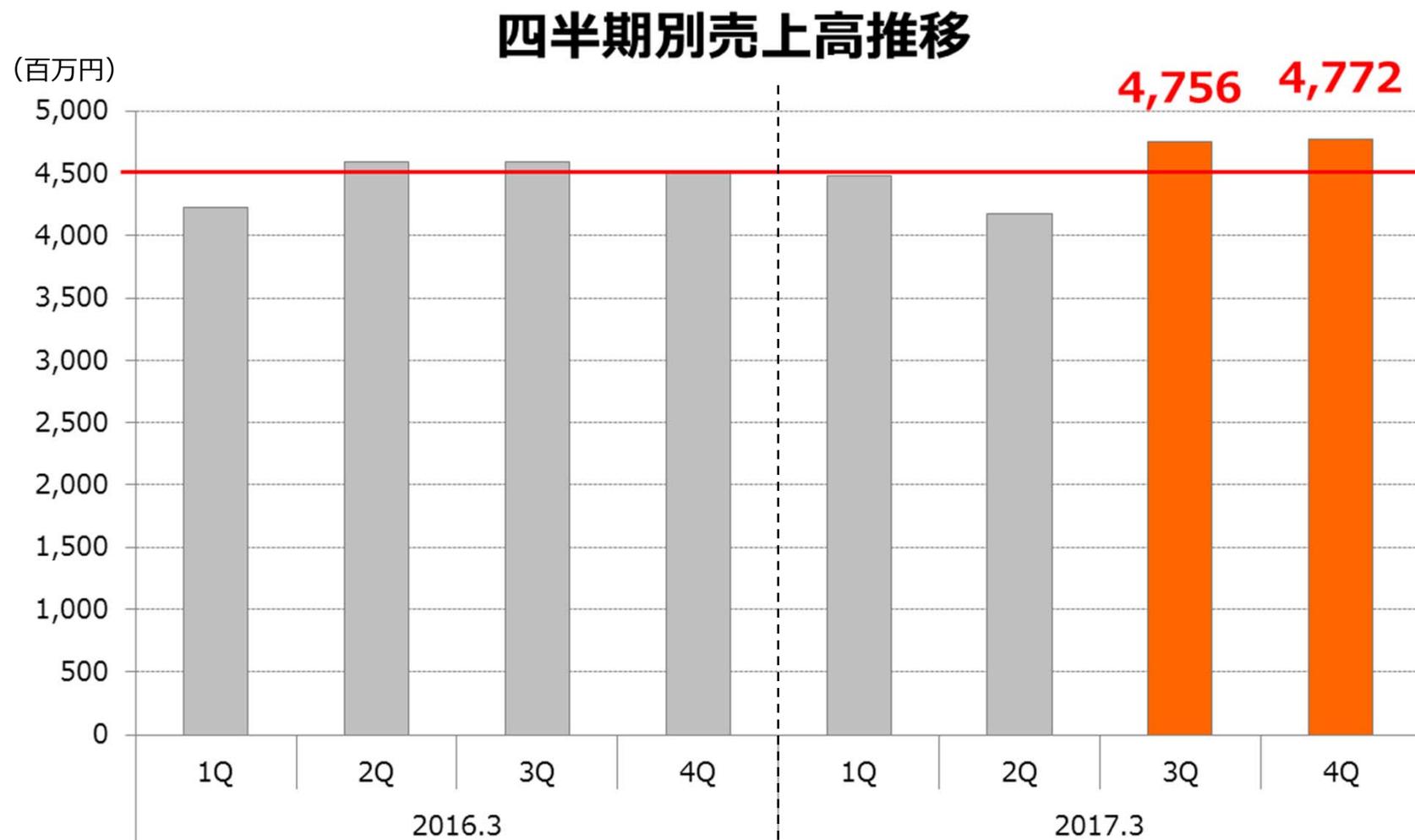
2017年3月期 業績ハイライト

売上高は、販売量が増加（対前期比+5.3%）したものの、当期3Qまでの円高の影響を受け、対前期比で微増
 利益面では、円高による売上減少、及び機能強化費用等の発生により、減益

(百万円)	2016.3 実績	2017.3 修正予想	2017.3 実績	前年同期比		修正予想比	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	17,919	17,500	18,183	+264	+1.5%	+683	+3.9%
営業利益	966	350	527	△439	△45.4%	+177	+50.6%
経常利益	688	200	412	△276	△40.1%	+212	+106%
当期純利益	468	20	233	△235	△50.2%	+213	+1065 %
為替レート (売上平均レート)	120円/\$	108円/\$	108円/\$	△12円/\$	△10.0%	—	—

四半期別売上推移

第4四半期の売上高は4,772百万円となり、第3四半期に続き、過去最高を更新



決算のポイント

生産量・販売量は堅調に増加したが、急激な円高と一過性費用の計上により増収減益となった

売上高：18,183百万円（前期比 +264百万円、+1.5%）

- 販売量は増加したものの、急激な円高により減収効果があり、対前期比微増。
- 販売量の対前期比：感光材+7.5%、化成品+6.5%、ロジスティック（荷動量）+5.3%
- 前年同レート換算した場合 18,847百万円（前期比+664百万円、+5.2%）

営業利益：527百万円（前期比△439百万円、△45.4%）

- 販売量・生産量の増加による製造原価低減では、+717百万円の利益改善
- しかし円高による減収効果、及び一過性費用（以下）により、全体としては減益。
 - ・前期末在庫調整費用の計上（264百万円）
 - ・機能強化：マーケティング・生産技術・人材マネジメント（189百万円）

経常利益：412百万円（前期比△276百万円、△40.1%）

- 営業外収入：淡路工場補助金等により224百万円（前期比+131百万円）
- 営業外費用：為替差損129百万円等により339百万円（前期比△31百万円）

当期純利益：233百万円（前期比△235百万円、△50.2%）

- 特別損失：役員退職慰労引当金等の計上（255百万円）

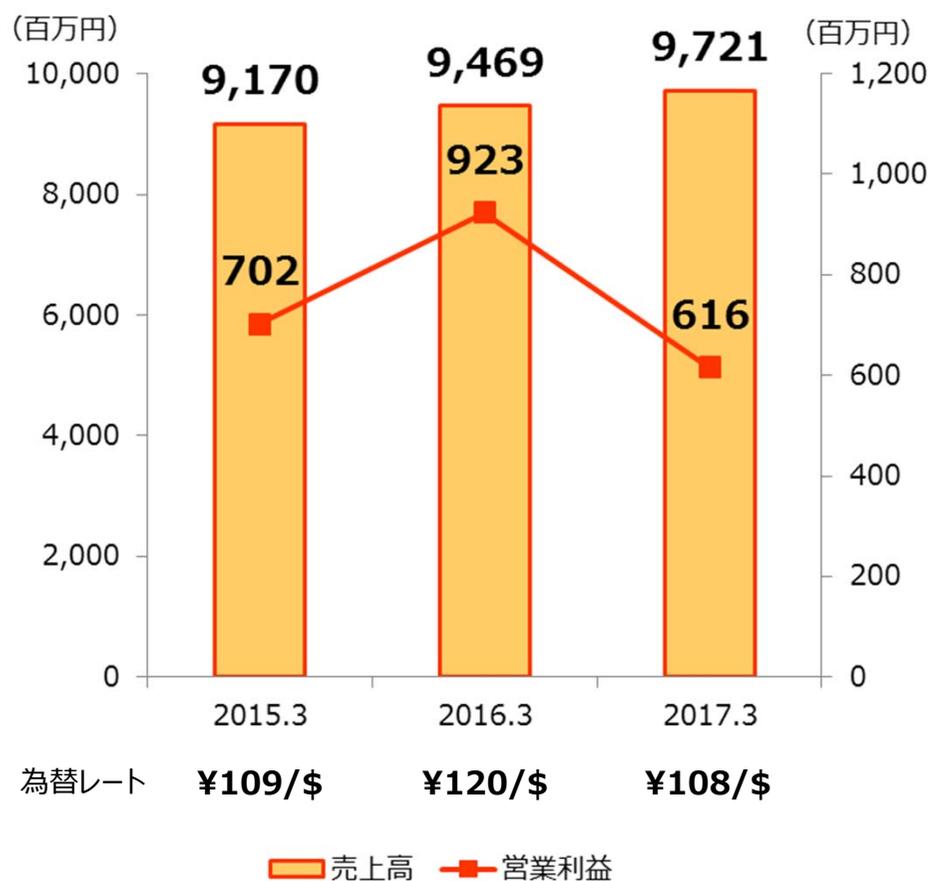
感光性材料セグメント

半導体・FPD需要が好調に推移し、販売量は順調に増加



新設ラインを導入した千葉工場の建屋

売上高・営業利益



■ 分野別概況

半導体関連、FPD関連共に好調に推移。
生産量・販売量が増加。

■ 業績概要

売上高：9,721百万円（前期比+252百万円）
営業利益：616百万円（前期比△307百万円）
販売量が増加（前期比+7.5%）し、増収。
第3四半期までの海外売上の為替影響により
利益面では減益。

■ マーケット

半導体：既存感光材分野は、多層構造の半導体（三次元メモリ・DRAM・ロジック）の増加、IoT・記憶媒体・車・AI・クラウド化・4-5G通信拡大。感光材需要は、高成長がさらに加速する見通し。
ディスプレイ：FPD関連需要は増加の一途。スマホ、高解像度TV、タッチパネル、車載FPDなども増加の一途。有機ELパネル関連は急増。

化成品セグメント

香料材料、溶剤、ロジスティックの全分野で販売量増加も、
海外販売が為替影響を受け、売上は前期同水準、利益面は減益



香料材料製品は香水・食品・
トイレットリー製品に広く使用されている

■ 業績概要

全分野で販売量増加
 (香料・溶剤 +6.5%、ロジスティック +5.3%)
 売上高は8,462百万円 (前期比+12百万円)
 営業利益は△89百万円 (前期比△131百万円)

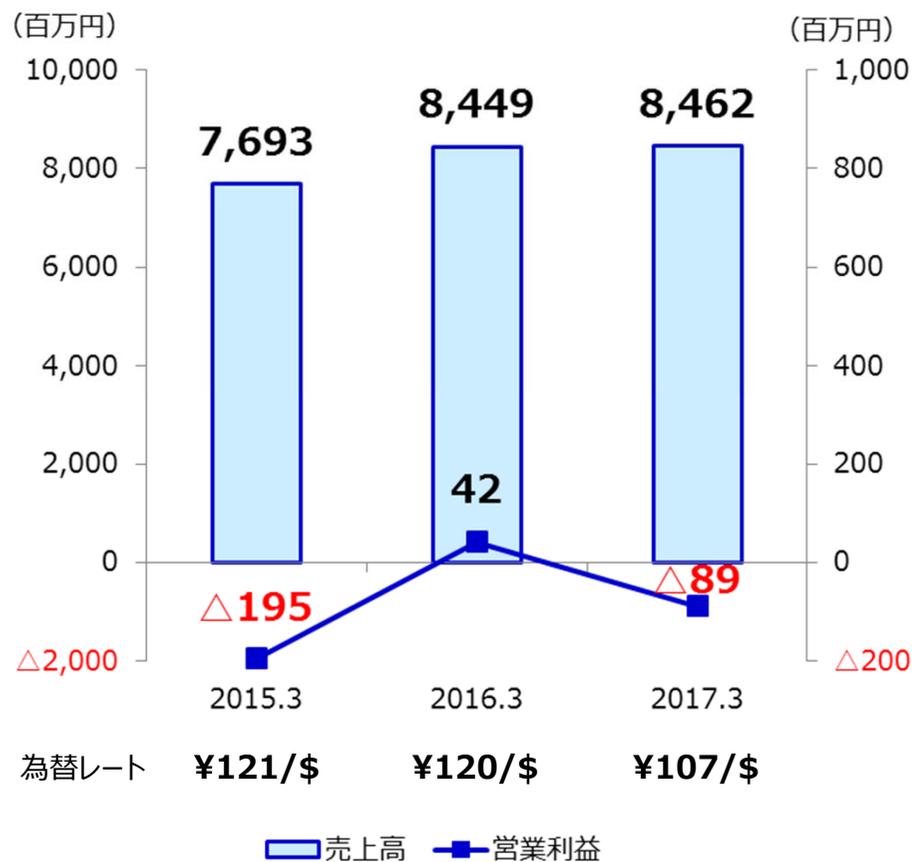
■ 分野別概況

- **香料材料分野**
海外主要顧客を中心に大幅販売増も、
円高影響により売上高微減
- **溶剤分野**
電子材料向け需要、リサイクル需要ともに
堅調に推移
- **ロジスティック分野**
荷動量は大幅増
タンク稼働率は、引き続き
好調に推移



高浜油槽所

売上高・営業利益



営業外損益～当期純利益

営業外収益は、淡路工場の補助金を135百万円計上し224百万円
特別損失にて役員退職慰労引当金を255百万円計上

(百万円)	2016.3期	2017.3期	増減額	
営業利益	966	527	△439	
営業外収益	93	224	+131	[補助金収入 +138] 淡路工場補助金の計上
補助金収入	0	139	+138	
その他	92	85	△7	
営業外費用	370	339	△31	[支払利息 △49] 金融諸費用の低減
支払利息	226	177	△49	
為替差損	125	129	+3	
その他	18	32	+14	
経常利益	688	412	△276	
特別損益	△5	△255	△249	[特別損失 △249] 役員退職慰労金
法人税等	214	△76	△291	
当期純利益	468	233	△234	

貸借対照表

(百万円)	2016.3期末	2017.3期末	増減額
流動資産	11,111	11,465	+353
現金預金	1,326	1,865	+539
売上債権	3,016	3,183	+166
棚卸資産	6,330	5,889	△441
その他	437	527	+89
固定資産	17,121	16,959	△161
有形固定資産	16,263	16,059	△204
無形固定資産	335	366	+31
投資・その他	522	533	+11
資産合計	28,232	28,425	△66
負債	21,426	21,424	△2
買掛債務	2,100	2,184	△84
有利子負債	15,473	15,008	△465
その他	3,852	4,232	+379
純資産	6,806	7,000	+194
株主資本	6,801	6,955	+153
評価・換算差額等	4	45	+40
負債・純資産合計	28,232	28,425	+192

← [棚卸資産 △441]
販売量急増により減少

← [有利子負債 △465]
借入金の返済により減少

[自己資本比率]
24.6% (前期末比+0.5%)

キャッシュフロー

	2016.3期	2017.3期	増減額
営業活動によるCF	2,232	2,378	+146
税金等調整前純利益	682	156	△526
減価償却費	1,634	1,628	△6
売掛債権の増減額（+は減少）	23	△166	△189
棚卸資産の増減額（+は減少）	△381	441	+822
仕入債務の増減額（+は増加）	200	84	△115
その他	72	234	+161
投資活動によるCF	△577	△1,179	△601
フリー・キャッシュフロー	1,654	1,199	△455
財務活動によるCF	△1,679	△629	+1,050
現金及び現金同等物に係る換算差額	△31	△34	△2
現金及び現金同等物の増減	△56	536	+592
現金及び現金同等物の期末残高	917	1,453	+536

[営業CF +146]
販売量の増加に伴い、
売掛債権166百万円増加、
棚卸資産441百万円減少、
仕入債務84百万円増加

[投資CF △601]
感光材にて最先端半導体向け
製造ライン新設

2018年3月期

通期業績見通しについて

2018年3月期 通期業績予想

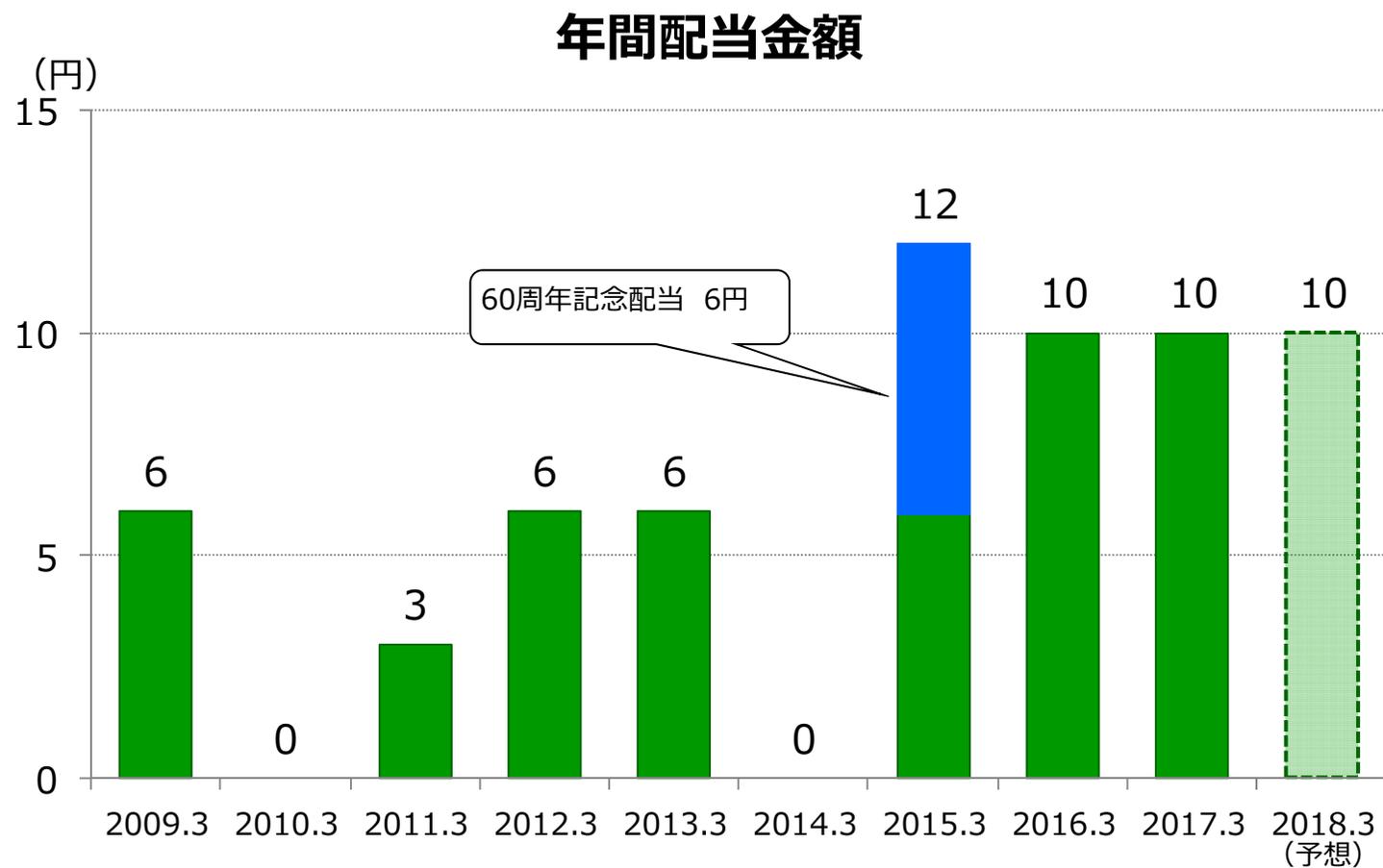
2018年3月期は、販売量の増加による増収増益を見込む
想定為替レートは ¥110/\$

(百万円)	2017.3期 実績	2018.3期 予想	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	18,183	18,800	+617	+3.8%
営業利益	527	750	+223	+42.3%
経常利益	412	600	+188	+45.6%
当期純利益	233	490	+257	+110.3%
為替レート	¥108/\$	¥110/\$	—	—

株主還元

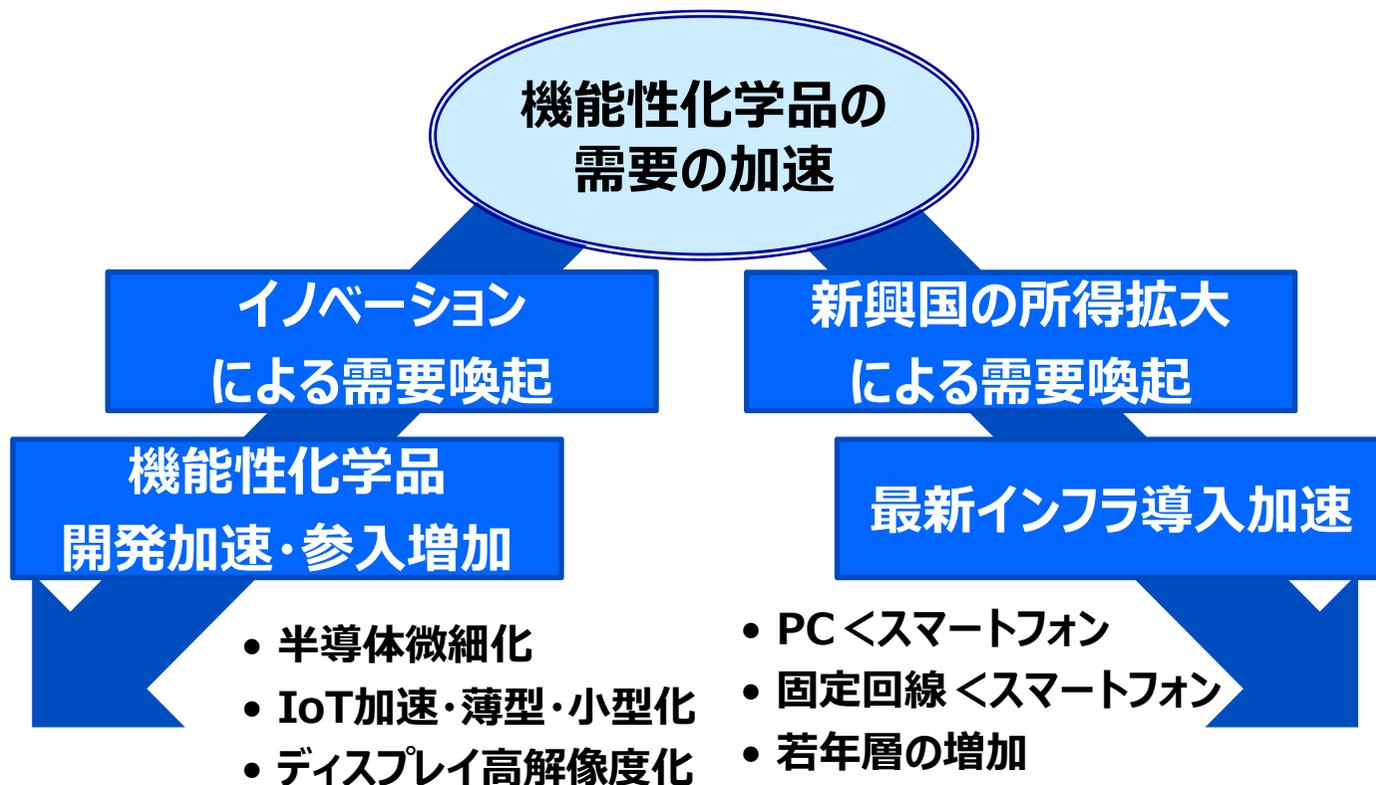
安定配当を基本とする

2018.3期も1株あたり年間10円の配当の見通し



今後の展望について

素材産業では、機能性化学品の加速、新興国による需要ドライブが加速



IoT、ビッグデータ、AIなど高度情報化
予防・再生医療など医療高度化

大量生産による低価格化と普及

市場：感光性材料

半導体の微細加工技術と多層化が進展し、14nmノードまで量産化が進行

現在はArFの技術を改良し、微細化を進めている段階

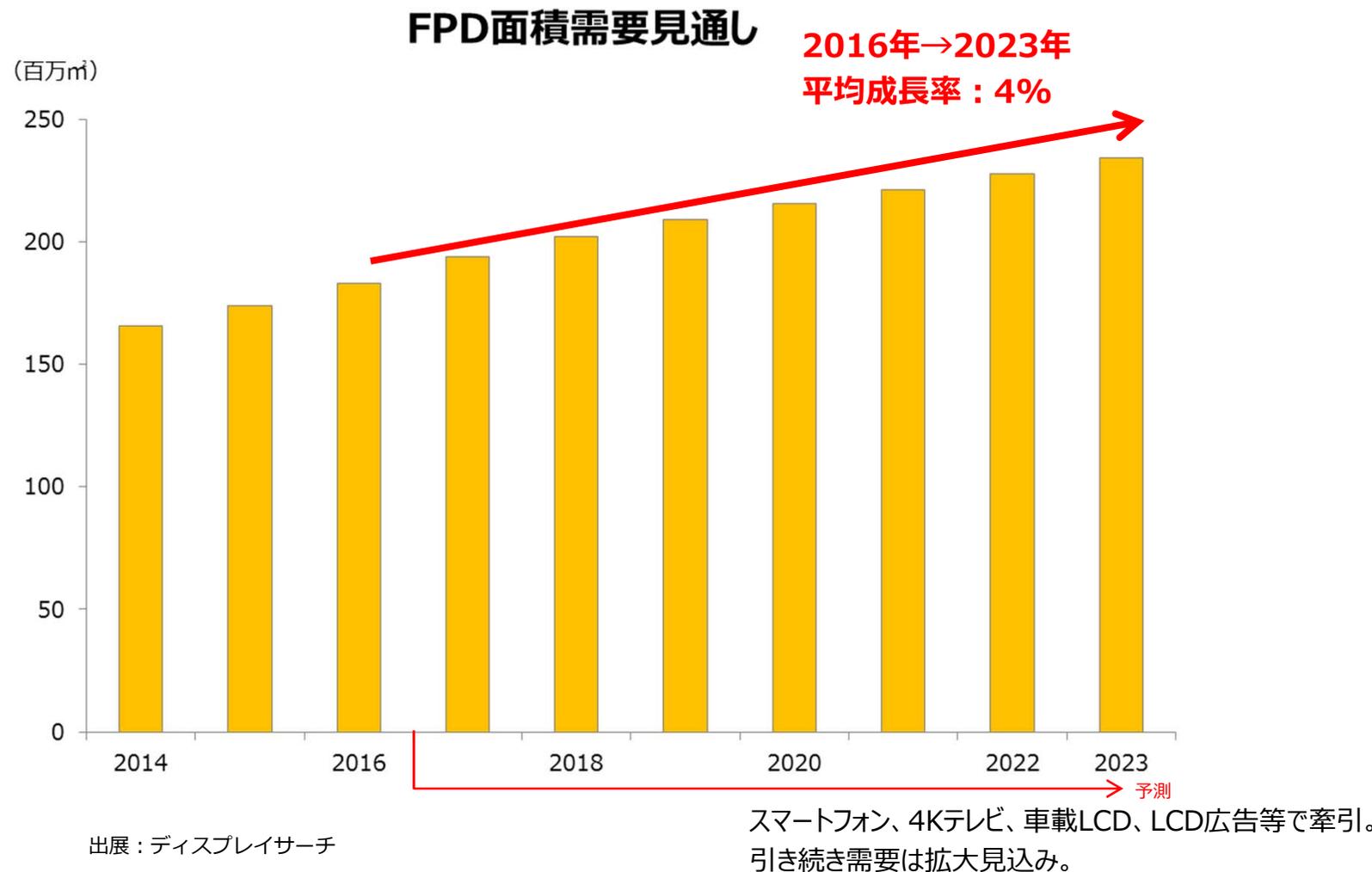
今後も、全世代の感光材の品質向上に対応し、製品ラインナップの更なる拡充を図る

	FPDパネル用		半導体用							
	g + h + i 線	i線	g線	i線	KrF		ArF			EUV
							液浸	ダブル パターニング	マルチプル パターニング	
線幅	~ 2,000nm	~ 1,000nm	~700nm	~200nm	~110nm	~65nm	~45nm	~22nm	~5nm	~3nm
用途	テレビ用、 一般用	先端中小型 パネル	IGBT、LCDドライバ、 LED		DRAM / NAND FLASH メモリ					次世代ロジック LSI
			先端ロジックLSI							
			スマートフォ ン タブレットに よる拡大		緩やかに縮小	拡大	やや拡大	横ばい	量産化 急拡大	
市場	新興国の 需要増									

← 当社製品・研究開発のアプローチ範囲 →

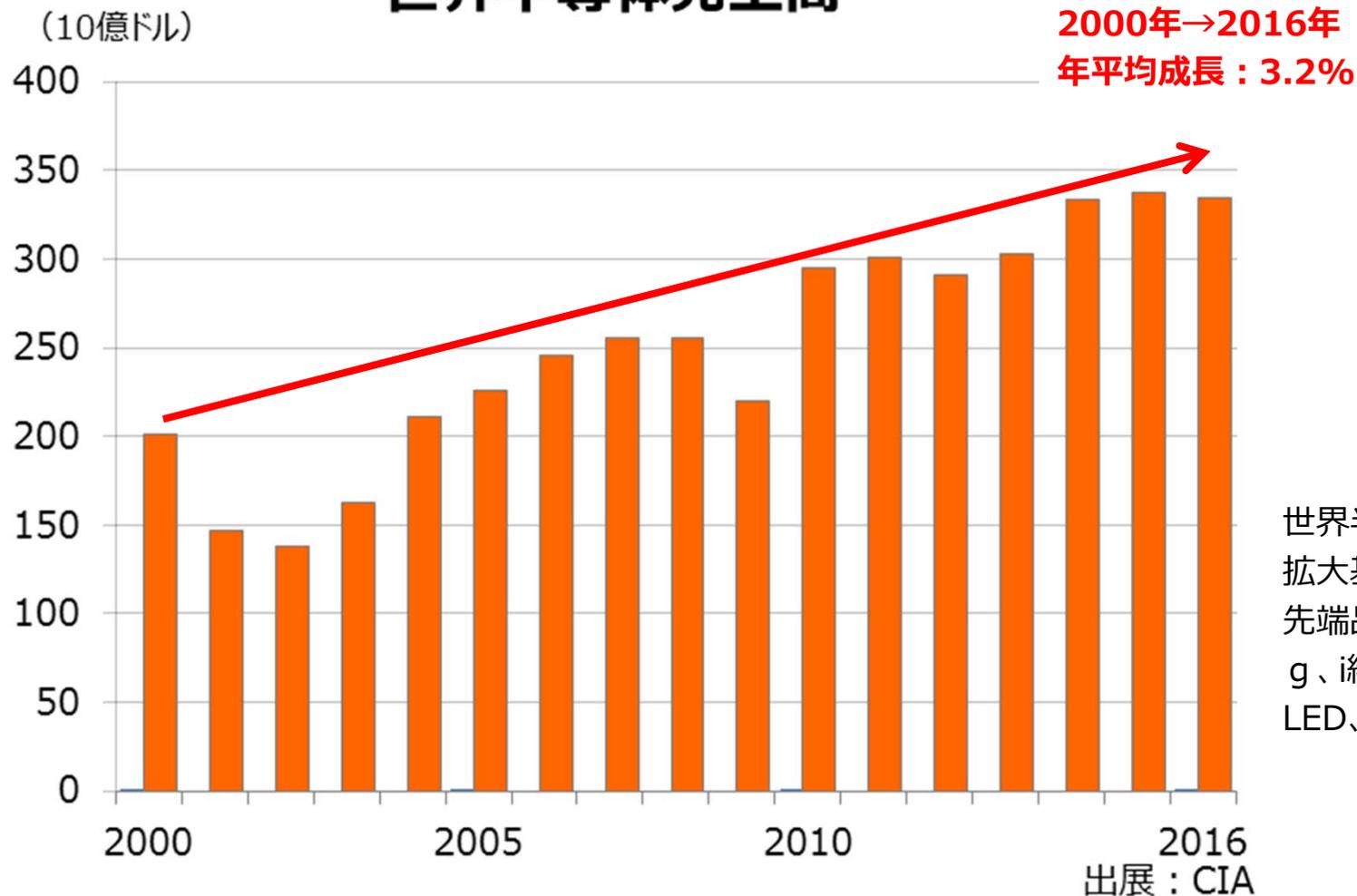
市場：感光性材料/溶剤 電子材料関連

FPD向けレジスト需要は、台湾・中国におけるFPD生産拡大により、成長が続く
画面の高精細化に伴い、ハイグレードの感光材ニーズが顕著化



先端半導体レジスト需要は、ArF世代の延長に伴い拡大
先端品の開発需要も旺盛

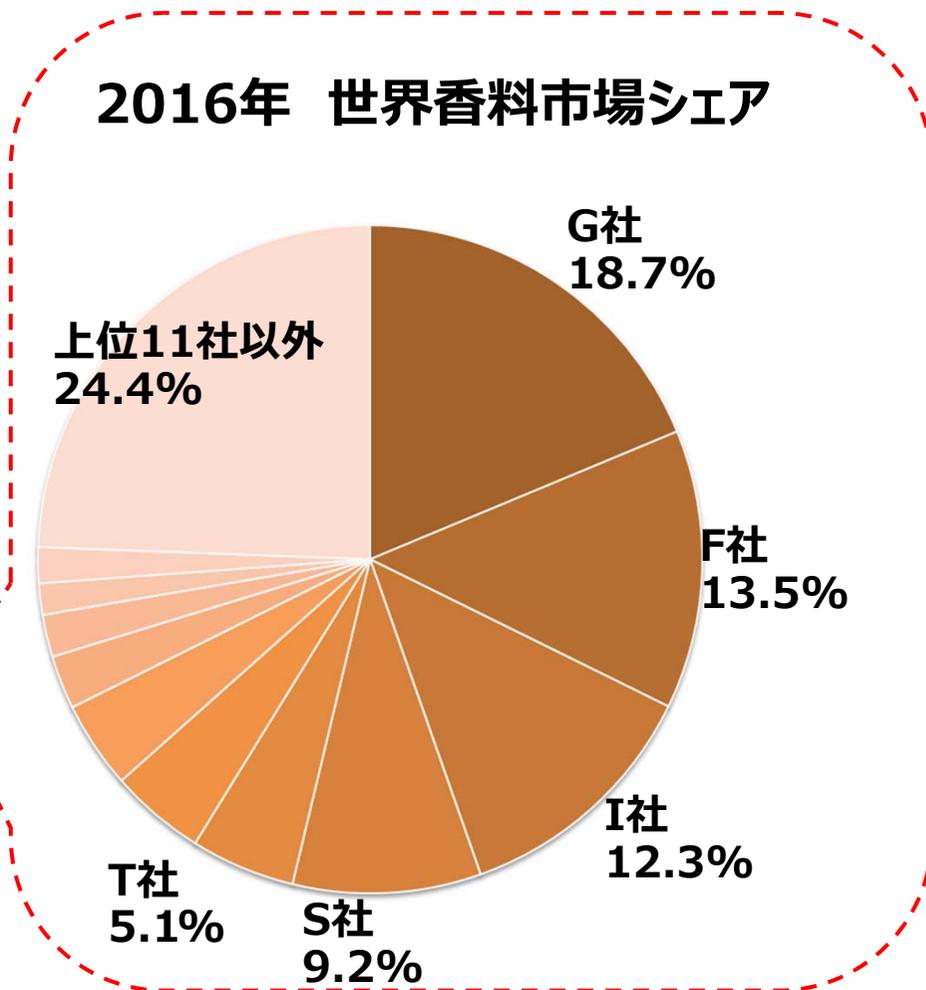
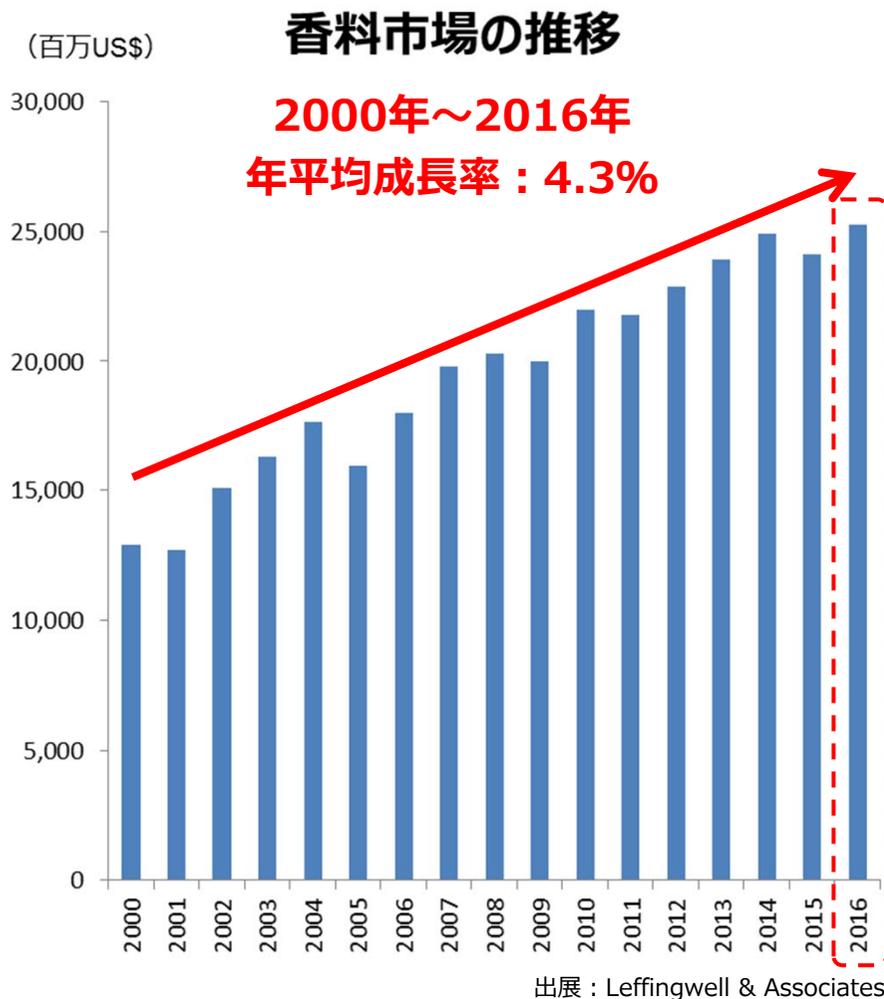
世界半導体売上高



世界半導体売上高は、
拡大基調は継続。
先端品：メモリ、スマホ好調
g、i線：IoT、車載半導体、
LED、パワーデバイス

市場：化成品 香料材料分野

香料市場の年平均成長率は4.3%、今後も同水準の成長が続く見通し
世界香料市場は上位5社でシェア62%



市場：化成品 ロジスティック分野

サービスレベルと顧客満足さらなる向上により、需要確保

外環道開通（平成29年度予定）による関東一円へのアクセスが向上、一段の利便性UPをお客様へ訴求
お客様、運送会社を含めた安全啓蒙活動などを積極的に推進し、当社油槽所の特徴を共有

高い参入障壁と好立地条件

- 東京湾岸での新規参入は、消防法規制による高いハードルがあり、困難
- 東京湾岸に立地、高速出入口にも近接しており好立地と抜群の交通アクセス
- 外環道の開通により利便性がさらに向上

サービスの差別化

- 多様な受入形態・保管施設を有し、充実した受払サービスを提供
- ファインケミカル事業で培ったノウハウを活かし、品質管理に強み

外環道開通により回転率が一層向上



高浜油槽所（市川）は、平成29年度開通予定の外環道市川南ICに近接しており、開通により一層、顧客の利便性が拡大。関東近郊への配送時間短縮により、タンク回転率の向上が見込まれる。

TOPIC① 「Fine Chemical Japan2017」に出展

ジャパンライフサイエンスウィークの4月19日～21日、 東京ビックサイト「Fine Chemical Japan2017」に出展

化成品セグメント溶剤分野の医薬原薬・中間体製造向け溶媒、
バイオ分野の三次元細胞培養システム「Cell-able®」、
新製品予定樹脂硬化剤 & 硬化促進剤「TG°C-ure™」の展示とプレゼンテーションを実施。

4月21日付の化学工業日報にて「TG°C-ure™」の記事が掲載された。



当社の展示ブース



「TG-Ams™シリーズ」
展示内容

「TG°C-ure™」の
展示内容

「Cell-able®」の展示内容

TOPIC② 樹脂硬化剤・硬化促進剤

構造接着用途向けに樹脂硬化剤・硬化促進剤「TG°C-ure™」を新規開発

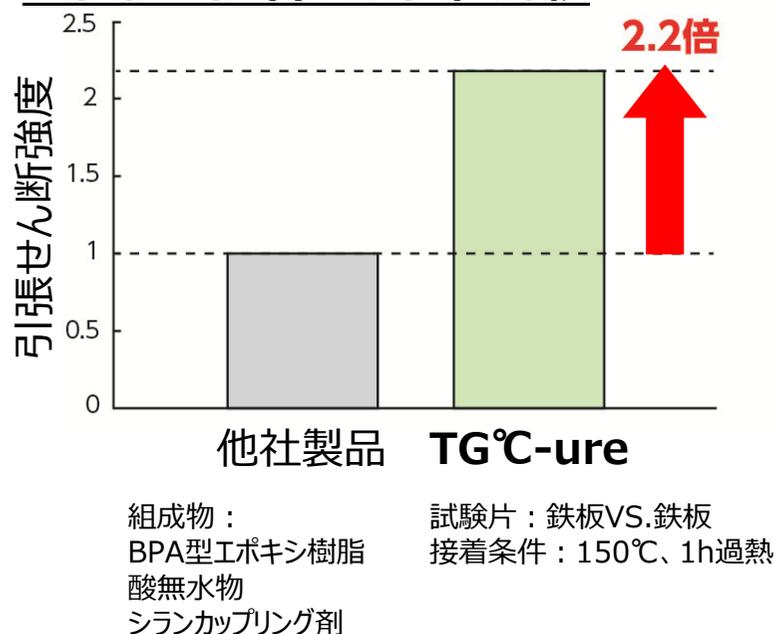
既存の他社製品比で、接着強度を2倍以上に高めることが可能。

過熱により硬化を開始し、硬化後は透明で高い接着力を有する硬化膜を形成できる。

現在、半導体チップや自動車、航空機分野を中心に用途開発進行中。

本格販売時期は未定。

使用例：鉄板を試験片としたエポキシ樹脂 硬化膜の接着力の他社比較



＜開発品(紛体)外観＞



＜樹脂に混練した様子＞



紛体形状を基本とし、平均粒径を数マイクロメートル以下にすることが可能。液体での供給も可能

TOPIC③ 医薬原薬・中間体製造向け高純度溶媒

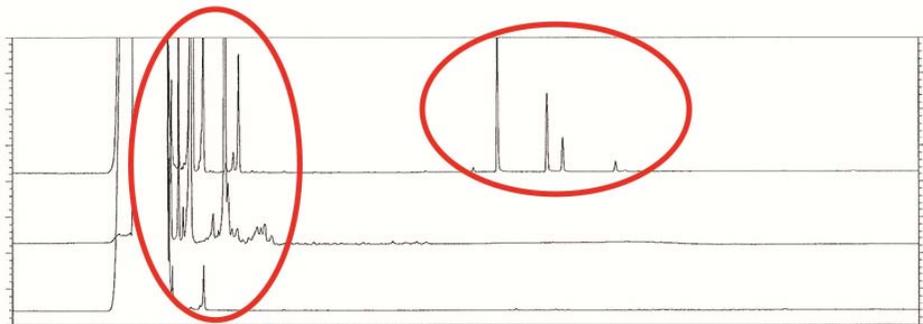
電子材料業界で培った金属・不純物の高純度管理技術を、 医薬原薬・中間体製造用途に展開

厚生労働省が定める残留溶媒ガイドライン、医薬品の元素不純物ガイドラインにおける対象物質・元素を低減し高純度化し、品質を保証。

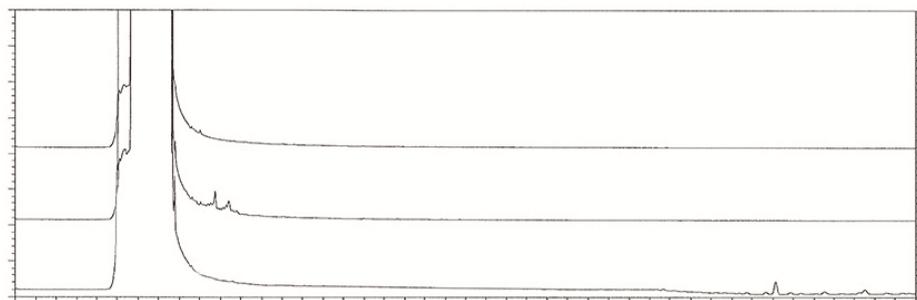
「TG-Ams™シリーズ」として、製薬業界を中心に展開開始。

一般工業品とTG-Ams™における含有不純物の比較

〈一般工業品〉



〈TG-Ams™〉



クリーン環境の充填設備で
高純度で管理



業界屈指の高い品質管理・分析技術

独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical

東洋合成工業株式会社

(見通しに関する注意事項)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。

従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。